1. 評 価 報 告 概 要 表

［認知症対応型共同生活介護用］

【評価実施概要】

事業所番号	1970101752
法人名	株式会社　百百
事業所名	グループホーム「笑がお」
所在地	〒　400-0071　山梨県甲府市羽黒町1461番地1 電話番号　055-253-1148

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2－12号		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】明治33年1月0日 事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	11人	常勤　5人　非常勤　6人	常勤換算　3．3人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋　造り
	2　階建ての　1　～　2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000　円	その他の経費(月額)	0　円
敷　金	□有(　　)　■無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(　100,000　) □無	有りの場合 償却の有無	□　有 ■　無
食材料費	朝食　0　円	昼食	0　円
	夕食　0　円	おやつ	0　円
	または1日当たり　1500　円		

(4)利用者の概要　平成20年10月1日 現在

利用者人数		18 名	男性　5 名	女性	13 名
要介護1		2　名	要介護2	4	名
要介護3		7　名	要介護4	5	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	83 歳	最低　70　歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	社会保険山梨病院　花形歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日　平成20年12月1日

湯村温泉街郊外の分譲住宅地に位置する。南に富士山が一望、西に天狗山の紅葉が季節を彩る。ゆったりとした雰囲気が、ホーム全体から感じられる。隣接に同族が経営する認知症専門のデイサービスがあり、共有する畑も広く入居者の楽しみの場所になっている。経営責任者でもある管理者は、開設当初からホームの目標として・今までの生活習慣に添う・家庭に近い環境づくり・家の中に閉じこめない・出来ることを奪わない・家族との信頼関係を持つ・地域の人々との触れあい・ターミナルケアの提供等、8項目を掲げ、その実現を着実に実行している。新たな課題に対ても真摯に取り組む姿勢も見られ、管理者や介護者の志の高さが伺われた。利用者も穏やかな表情をしており、安全で安心できる居場所として生活している様子が伺われた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)

①同業者との交流を通じた向上②地域との合同防災訓練の実施　③栄養バランスを専門家の助言を得ること。 の三点であったが、いずれも運営推進会議に提示するとともに改善計画を作成し実行されていた。他のグループホームでの研修に、職員は良い刺激を受けていた。栄養の助言は、栄養士の資格者がチェックされていた。地域の防災訓練への参加については、地域の承諾を得ていたが、当日、急遽地域の事情で防災訓練が中止になったため実現していない。

今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

職員全員と自己評価の意義や目的についての事前学習会を開催後、全員が自己評価を提出し、管理者が纏めている。職員は自己評価の記載に、やや負担感も感じたが、自分達のケアを見直す良い機会となったと実感している。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)

会議は3か月に一回、開催している。外部評価の改善点であった地域の防災訓練への参加については、参加委員の力添えで、今年度から参加することになった。又、委員の方を中心にした地域のボランティアが、毎月来訪するなど、地域の人々との交流や協力体制は着実に効果をあげいる。又、家族が多く参加するため、家族間の交流が広がるとともに、様々な情報交換が活発になっている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)

毎月、手紙による利用者の様子の報告を送付するとともに、運営推進会議に参加する家族が10人と多いため、グループホームの様子を伝えたり、意見を貰う機会は多い。家族の来訪が多いため、来訪時に、コミュニケーションを取り、家族の要望を聞く努力を管理者を中心に行い、家族の相談や悩み等に素早く対応している。

重点項目④

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

地域に住む一軒として、自治会に加入している。ゴミ出し当番も担当するなど、地域との触れあいを大切にしている。近所の方が、季節の野菜を差し入れてくれたり、毎朝の散歩コースにあるお寺では、利用者が休憩するために椅子やお茶を出してくれ、利用者の楽しみになっている。地域の祭りや文化祭に参加するのみでなく、近くの公園の草取りを利用者がするなど、住民の一員としての役割も果たしている。

2. 調 査 報 告 書

事業所名： グループホーム「笑がお」

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの目標を家庭に近い環境作り、家族との信頼関係、出来ることを奪わない、地域の方々との触れあい等の8項目を定めてあるが、笑顔を大事にすることが8項目を集約した言葉であるとの思いから、解りやすく「笑顔」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回、実施するカンファレンスやリーダー会議の折に勉強会を行うとともに、現場で直面している課題に対して共に考え対応するなど、常に理念がぶれないよう話し合っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。ゴミ出し当番を行うなど、地域にとけ込む努力をしている。地域の住民が、散歩コースに椅子を出してくれるなど、多くの方々との交流が深まっている。利用者も公園の草取りを行うなどの役割も果たしている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は事前学習をした上で、全職員が作成し管理者がまとめて、職員にフードバックしている。一人一人が作成することで、ケアの質の向上につながっている。外部評価は結果を大切に受け止め改善計画を作成し、全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一度、開催。包括支援センター職員、母子相談員、民生委員、老人クラブ等の参加を得、活発な意見が出され、地域防災訓練への参加の承諾も、会議を通して得られている。又、家族同士の交流の場としても効果があがつている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護フォーラムの発表者として、管理者は参加しているが、日常的には法令上の助言や指導を得るにとどまり、具体的なサービスや運営については接点がない。	○	ホーム側から運営推進会議への参加要望や、ホームの行う事業に招待するなどして、市町村担当者との交流を強化されることを希望する。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真などを添えて個別に近況を伝える手紙をだしている。外部評価実施中も、家族が何人も訪れてきたが、管理者や職員は素早く対応し、情報交換をにこやかにしていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰を中心に考えることが必要か、常に家族と話し合っている。運営推進会議にも大勢の家族が参加し、意見を出している。又、家族の訪問も多いので、具体的に何でも伝えられる雰囲気がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切にし、異動は極力さけている。パート職員の体調による休暇や退職時には、日頃から、馴染みの関係のある管理者と事務長が対応することにより、利用者の不安や混乱が防止できている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員も含めた全職員参加によるテーマ別研修や事例検討会を、ホーム内で毎月、実施している。職員の資格取得に対しても、支援している。現場の実践的教育に力を注ぐとともに、県主催の研修参加や、他の事業者との交流研修も始めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、様々な場面での交流を図っている。市内にある他のグループホームとの交流研修を始めて、職員の質の向上や士気の高揚が図られている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、家庭訪問を行い、利用者の生活習慣や思いを把握し、家族の意見を取り入れた介護計画をたてている。利用開始までに日数がある場合は、来訪して貰い、お茶をともに飲んだり、ホームで昼食や入浴を体験してもらいホームでの生活に馴染めるよう柔軟な対応をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は、学校の社会科でしか知らなかったことを教えてもらい、勉強になったと感じている。お手玉作りや、調理の工夫を学ぶ、重い荷物をおろす手伝いを自然としてくれるなど、お互いに思いやる関係が伺える。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体の不自由な利用者の歯磨きを、寄り添って見守る姿がみられた。本人の出来る事を支え支援するため、回想療法を学び実践する等の工夫を重ねている。利用者の表情は、はつらつとしており、利用者同士が談笑している様も見られた。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月2回、全員でカンファレンスを行い、本人の変化や思い、家族の要望等の情報を出しあい、計画を作っている。又、必要に応じて医師、看護師、家族が参加して話し合い計画作成をしている。誰のためでなく、利用者のための介護の実践計画づくりを目標としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン更新表を作り、3か月に1回、見直しを実施している。利用者の状態に変化が生じた時は本人や家族の思いや希望を聞いた上で、介護計画の見直しを直ぐにおこなっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用開始前の方に食事やお茶、入浴サービス等を随時に提供している。利用者に対しては、ドライブの途中で自宅訪問をしたり、盆暮れの帰宅への支援や、毎月の病院受診の付き添いもおこなっている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の大半が、ホームでの看取りを希望しているため、家族と相談の上、在宅医療を担ってくれる2人の医師を主治医にしている。毎月、1回の定期受診や特変が起きた場合の受診もホームで対応している。医療連携体制を整備して、他の主治医との連携もスムースにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来、3人の看取りをしている。利用開始時に、終末期の対応方針について説明し、看取りを希望する家族とは、再々に渡り話し合う。看取り介護を行う時は主治医、看護師、家族、職員とのカンファレンスを行い、方針を決定している。新たな課題対応について検討している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室時にはノックして本人の了解を得たり、食事の時には、楽しそうな笑顔で、さりげなく介助する場面がみられた。トイレ誘導も、誰も気づかないよう行われていた。管理者は、日頃から利用者のプライバシーと尊厳の大切さを教育しており、職員意識の変化を感じている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就眠、食事時間、入浴時間等は、本人の体調や希望の時間に合わしている。体調の悪かった利用者に個別に対応する場面も見られた。ベランダ前のソファーで談笑する利用者や、一人テレビを見る人やら、個人の希望に添った生活が営まれている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自立摂取できる利用者は、料理の感想を言い合ったり、隣の仲間の世話をやいたりと賑やかである。周辺症状を呈していた方も、落ち着いて介護者と穏やかに食事をしていた。食後の食器集めや食器洗い、テーブル拭きも自然と職員とともに行っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数や、入浴時間の制限は一切していない。夜間入浴も日常的に実施するとともに、仲良し同士が二人で入浴することもある。夜間入浴は、人的に厳しい所もあるが「家庭に近い環境作り、利用開始前の生活習慣」を維持するために、続けたいとの強い意志が伺われた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月するドライブ、外食等は車椅子利用者も共にしている。朝の散歩や畑での野菜作りも、利用者の楽しみになっている。手編みのチョッキが利用開始後、再び出来るようになった方、好きな作者の本の話を紹介してくれる方等、個人個人の持てる力を発揮している様子が伺われた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「閉じこめない」介護を目指し、毎朝の散歩を初め、生協での買い物や月に一度の外食会やドライブ、希望に応じた自宅への立ち寄り等の楽しみごとや、地域のお祭りや文化祭等にも参加するなど、外出する機会を多く持っている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵をかけないこととしている。外部評価実施中に、エレベーターから降り、玄関前でウロウロしていた利用者に対して、優しく声をかけられ、自分で静かに戻る利用者の姿があった。職員間の見守りや、事務室にいる事務長との連携で危機介入も出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、夜と昼に避難訓練をしている。地域の防災訓練への参加は、地域の事情で中止となり実現していない。しかし、川が増水した時、地域の方が見守りにくるなど、協力体制はできてる。災害時の備蓄の必要性は理解しているが、万全な整備に至っていない。	○	引き続き地域との関連を強化されて防災訓練に参加するよう望むとともに、備蓄についても整備されることを希望する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜を豊富に使った食事を提供していた。栄養内容は、栄養士の資格を持つ職員に意見を貰っている。医師の助言も受け、刻み食等、一人一人にあった調理方法にしている。気になる方の食事、水分の摂取量は、詳細に記録していたが、他の方の水分摂取状況の記録はない。	○	全ての利用者の水分摂取状況について記録することを希望する。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るい日差しが終日差し込み、静かな音楽が流れ、食卓の横やベランダ前には大きなソファーが置かれ、思い思いに寛いでいた。ベランダには洗濯物が風にゆれ、季節の花が植えられるなど、自宅のような雰囲気が漂よっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の拵えは、家族と相談し、利用開始前と同じように馴染みの家具や本人の趣味を取り入れた部屋づくりがされていた。家族の写真が壁一面に貼ってある方や、趣味の手芸用品や本を置いている方など、利用開始前と同じその人らしく過ごせるよう配慮されている。		